

第1章 意見交換会の概要

1 開催目的

この意見交換会は、「宇部市障害者福祉計画」の改定にあたり、障害者関係団体の活動状況や今後の福祉施策へのニーズを把握し、計画策定の基礎資料とすることを目的に開催したものです。

2 開催概要

(1) 対象団体

対象団体は、原則として、下記アからウの条件を満たしている障害者関係団体(主に、障害当事者又はその家族で構成されている団体)を選定しました。

ア 宇部市社会福祉協議会又は宇部市民活動センターの登録団体

イ 市内に事務局を設置している団体

ウ 1年以上の活動実績がある団体

団体一覧

団体名	設立年月日	会員数 (H22.8.1現在)
宇部市聴覚障害者福祉協会	昭和23年 9月	89人
宇部市視覚障害者福祉協会	昭和23年 11月	56人
財団法人 宇部市手をつなぐ育成会	昭和40年 4月	162人
財団法人 宇部市身体障害者福祉協会	昭和45年 2月	120人
特定非営利活動法人 むつみ会	昭和48年 12月	80人
精神障害者回復者クラブ憩いの家『途中下車』	昭和60年	25人
宇部市腎友会	平成 3年 5月	85人
知的障害者家族の会 “そら”	平成10年 1月	17人
在宅障害児・者と家族を支援する会	平成13年 3月	約100人
特定非営利活動法人 おひさま生活塾	平成16年 7月	60人
特定非営利活動法人 ふらっとコミュニティ	平成17年 11月	30人
特定非営利活動法人 ときわ	平成18年 12月	57人
社会福祉法人南風荘を後援する会 (南風荘後援会)	平成21年 9月	347人

(2) 実施方法

身体・知的・精神の各障害種別や当事者団体・家族団体の違い等にこだわらずに、1グループ・3～6団体ごとに分かれて、ワークショップ形式で意見交換会を進めました。(これまで交流の機会が少なかった各団体が意見交換しあうことにより、団体間の情報の共有化とともに、連携の促進が図られるよう配慮しました。)

(3) 実施期間及び内容

平成 22 年 8 月 28 日から 10 月 4 日までの間に、8 回開催しました。

〔第1回意見交換会〕

○テーマ：「今後の円滑な活動推進のためには」

(各団体の紹介・活動内容、活動における課題についての意見交換)

開催日	時間	参加団体数	参加者数
8 月 28 日	9:30～12:00	3	5 人
8 月 28 日	13:30～16:00	4	7 人
8 月 29 日	9:30～12:00	3	4 人
8 月 30 日	9:30～12:00	4	7 人

〔第2回意見交換会〕

○テーマ 1 「福祉サービスについて」

○テーマ 2 「就労や社会参加について」

開催日	時間	参加団体数	参加者数
9 月 25 日	13:00～16:00	7	12 人
9 月 27 日	13:00～16:00	6	10 人

〔第3回意見交換会〕

○テーマ 3 「バリアフリーについて」

○テーマ 4 「その他福祉施策全般について」

開催日	時間	参加団体数	参加者数
10 月 2 日	13:00～16:00	8	13 人
10 月 4 日	13:00～16:00	3	6 人



第2章 意見交換会に関する報告

意見交換会では、障害者施策全般に関する意見から、各団体における個別の課題や事業レベルの具体的な意見まで、多くの意見をいただきました。

これらの意見については、本計画策定の参考資料とするため、テーマごとに現状と課題を整理しました。

1 障害者関係団体の活動について

「今後の円滑な活動推進のためには」			
団体名	主な活動内容	活動上の課題	今後の活動方向
宇部市聴覚障害者福祉協会	日曜教室、レクリエーション大会、新年会	会員の高齢化、会員数の減少	若い人の入会の促進、活動の活性化
宇部市視覚障害者福祉協会	本部活動、女性部活動、グランドソフトボール部、卓球部	移動の問題、会員の高齢化、運営資金の確保、行政との勉強会	移動手段の改善、自立支援の強化、高齢化対策、災害時避難訓練
財団法人 宇部市手をつなぐ育成会	バス研修旅行、クリスマス会、清掃活動	会員の高齢化、会員数の減少	若い人の入会の促進、親の不安の解消、地域で当たり前になる環境づくり
財団法人 宇部市身体障害者福祉協会	年1回のバス研修旅行	団体の活動資金、運営資金の確保	若い人の入会の促進
特定非営利活動法人 むつみ会	相談活動、家族の支援活動、啓発活動	会員の高齢化、活動運営の継続	遅れている精神保健福祉施策の向上
精神障害者回復者クラブ 憩いの家『途中下車』	多くの人に出会い、話し、活動する場の提供	参加者数の減少、活動の限界	活動の存続を検討中
宇部市腎友会	講演会、「腎臓病を考える集い」、学習会	会員の高齢化、会員数の減少、行事の運営	会員相互の交流の促進、行事の継続
知的障害者家族の会 “そら”	家族が手をつなぐ、店舗運営、就労疑似体験	スタッフ不足、活動への理解の浸透不足	運営の仕組みづくり、他地区への活動の拡大、グループホームの立ち上げ
在宅障害児・者と家族を支援する会	研修会・勉強会、会報発行	幅広い課題、多様な希望、役員の高齢化	まさかの時に備えた当事者の支えの準備、権利擁護、成年後見制度
特定非営利活動法人 おひさま生活塾	理解の拡大、生活支援環境の充実	安定した居場所の確保	親の不安の解消、子ども達が地域で生活できるための活動

特定非営利活動法人 ふらっとコミュニティ	ひだまり（デイサービスなど）の運営、講演会	運営資金の確保、専門職員の雇用	地域のニーズに合わせた活動の拡大、地域住民とのつながり
特定非営利活動法人 ときわ	料理教室、ドクター講座、スポーツ行事、研修旅行	一人一人の意見を結びつけること	就労支援、作業工賃の増額、地域で自立した生活が営めるための能力の向上
社会福祉法人南風荘を 後援する会 (南風荘後援会)	社会福祉法人事業の後援、自立や生活環境の質的向上	通所及び入所者利用者の要望への対応	生活の質の向上、親の高齢化に伴う不安への対応、情報提供

障害者関係団体の共通の課題

課 題	主 な 意 見
活動資金について	<ul style="list-style-type: none"> ・運営資金の確保については、団体のみでの努力では限界があり、危機感が募る。 ・各団体が事務手数料を払うことで、各団体の事務を共同で処理する仕組みができればと思う。 ・資金が乏しい状態でも、いかに上手くやっていくかが大切である。 ・バザーやリサイクル事業の実施により、運営資金を確保している団体もある。
会員について	<ul style="list-style-type: none"> ・新規会員を勧誘したいが、対象者がわからない。 ・高齢者と若年者とでコミュニケーションがとれない。 ・若い人がメリットを感じるような活動が必要である。
団体のあり方と運営について	<ul style="list-style-type: none"> ・行事への参加はあっても会への加入がない。 ・会員になるメリットがアピールできていない。 ・家族会が多くあるが、連携していない。 ・障害種別にとらわれずに他の団体や事業者と交流すると刺激になり、お互いによい環境を作り出せる。 ・活動自体が閉鎖的になっている。団体間の情報交換の場が欲しい。 ・活動をやめるのは簡単だが絶やしてはいけない。いかに存続していくかを考えたい。 ・個々にニーズの異なる会員から、意見を集約するのが難しい。 ・スポーツ大会やレクリエーションを通じた魅力ある行事を開催する。 ・医師等専門職を巻き込んだ相談会を開催する。

2 福祉施策へのニーズについて

各団体からの福祉施策についての意見・提言を、下記のとおり、テーマごとに整理し課題としてまとめました。

[テーマ1:福祉サービスについて]

意見・提言	課題
<ul style="list-style-type: none"> 一次相談として、振り分け機能を持つ総合相談窓口とともに、各相談機関における専門分野と特徴を明確化してほしい。 	相談支援体制の充実
<ul style="list-style-type: none"> 短期入所や施設入所における重度障害者や精神障害者の受入れ体制の充実が必要である。 緊急時における短期入所の円滑な利用を可能とする仕組みづくりが必要である。 	入所施設(短期入所を含む)の充実
<ul style="list-style-type: none"> 市内に機能訓練を行う障害福祉サービス事業所がない。 学校卒業後に向けた教育と福祉の連携の仕組みについて、保護者に向けた情報伝達が必要である。 	日中活動系サービスの充実
<ul style="list-style-type: none"> 早期発見、早期対応ができるように、医療・保健・教育の連携をさらに進める必要がある。 他市に比べて通級教室が少ない。 	総合療育機能の充実
<ul style="list-style-type: none"> 手話のできる人が少ない。 情報発信の際には、点字化やSPコード化など、障害に応じた多様な対応が必要である。 	コミュニケーション支援の充実
<ul style="list-style-type: none"> 移動支援事業の充実が必要である。 	外出支援の充実
<ul style="list-style-type: none"> 重度心身障害者医療費の助成制度の継続が必要である。 	医療費負担の軽減
<ul style="list-style-type: none"> 医療機関における障害への理解と受診への配慮が必要である。 本人の障害状況、医療状況、生活状況などの情報をとりまとめた個別の手帳の作成が必要である。 	医療サービスの充実
<ul style="list-style-type: none"> 対象の用具品目や、対象者、耐用年数などの見直しが必要である。 	日常生活用具・補装具給付制度の充実
<ul style="list-style-type: none"> 団体活動が事業を開始するにあたり、制度面も含め、多様な情報が必要となるため、情報提供等の行政からの支援は不可欠である。 	社会資源の活用

[テーマ2:就労や社会参加について]

意見・提言	課題
<ul style="list-style-type: none"> 障害者雇用への啓発事業と就労支援を進める就労支援ネットワーク会議による事業の継続実施が必要である。 	就労支援の拡充
<ul style="list-style-type: none"> 障害者が参加できるサークル等の文化・スポーツの相談窓口の設置が必要である。 	スポーツ・文化活動への支援
<ul style="list-style-type: none"> 窓口コミュニケーションボードの設置が必要である。 公的機関にて、手話での簡単な挨拶ができる職員を設置してほしい。 	聴覚障害者への対応

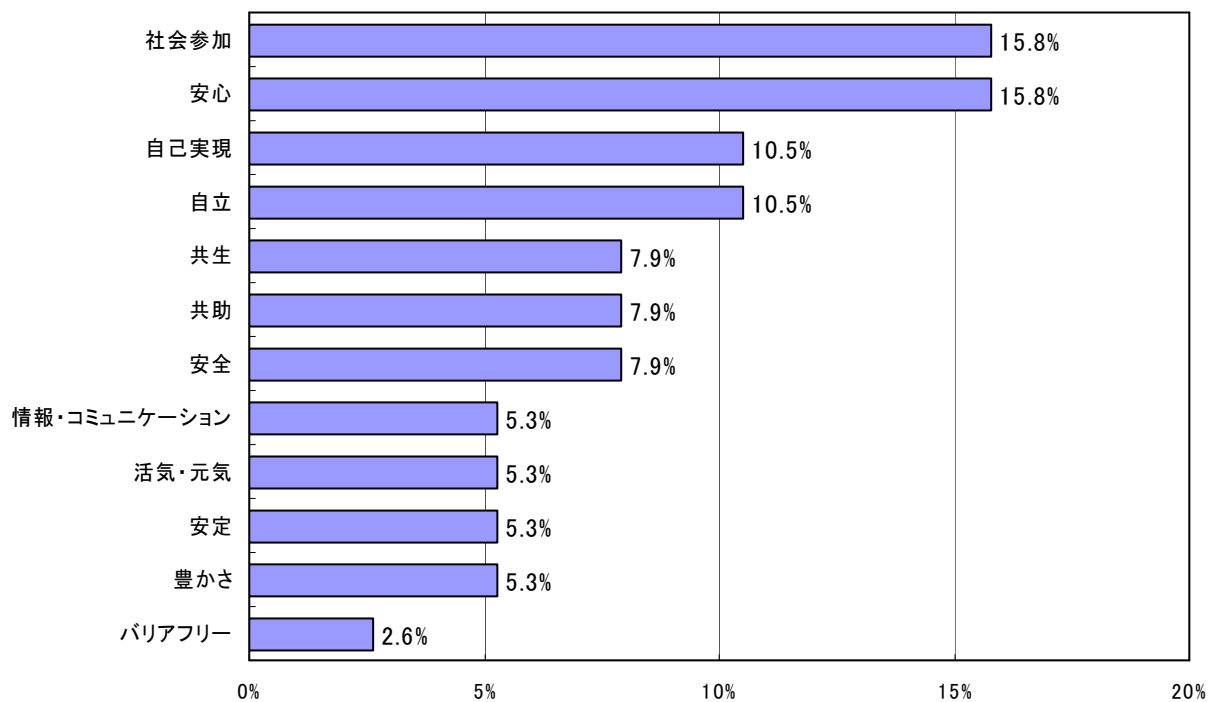
【テーマ3:バリアフリーについて】

提言・意見	課題
・障害者の特徴などを知らない市民がいることから、障害者の理解についての一層の啓発が必要である。	障害者理解の推進
・緊急通報システムや火災警報器設置など、一層の安全対策への取り組みが必要である。	防災対策の推進
・災害時要援護避難支援制度や避難所での障害者への支援体制などの啓発が必要である。	災害時支援の充実
・地域における居住の場の確保が必要である。 ・公営住宅のグループホーム・ケアホームへの活用が必要である。	住まいの場の確保
・障害に配慮した建築物や歩道等の整備が必要である。 ・まちづくりを計画する際は、障害者の意見も取り上げてほしい。	道路の段差等の解消 (バリアフリーの推進)
・定期的な意見交換会の開催など、障害者関係団体と行政との情報の共有化が必要である。	情報提供体制

【テーマ4:その他の障害福祉施策について】

提言・意見	課題
・若年層のボランティア活動への参加を促進するなど、計画的なボランティアの育成が必要である。	ボランティアの育成
・障害者の人権を守る市の取り組みの指針を示して欲しい。	社会の理解の向上

【障害者にとって、住みよいまちづくりを進めていく上での考え方】



※各団体にアンケート形式で意見聴取(複数回答可・3つまで)